

中田 瑞穂

1893 - 1975 年

新潟脳外科病院 院内研究会
「私に見えた中田瑞穂先生」

11月9日(日) 2008年 / 大講堂 生田房弘

なか た みづ ほ

明治 26 (1893) 年 4月 24日	島根県津和野にて出生
大正 6 (1917) 年 12月 (24歳)	東京帝国大学 医科大学卒業
大正 7 (1918) 年 1月	同大学 近藤次繁教授の外科に入局, 以後4年間副手, 助手
大正 11 (1922) 年 4月 (29歳)	新潟医科大学 外科教室助教授, 新潟医科大学附属医学専門部教授就任
大正 13 (1924) 年 12月 (31歳)	ドイツ (ハイデルベルク, E. Enderlen 先生など), フランス, オーストリア, アメリカ合衆国に外科学研究のため出張
昭和 2 (1927) 年 5月	帰国
昭和 2 (1927) 年 6月 (34歳)	新潟医科大学 外科学教室 教授
昭和 7 (1932) 年 1月 (38歳)	最初の脳腫瘍 (髄膜腫) 手術施行 (5月退院)
昭和 9 (1934) 年 (41歳)	(妻子夫人 急逝)
昭和 11 (1936) 年 5月 (43歳)	文部省在外研究員としてアメリカ合衆国 (脳神経外科医 H. Cushing, W. E. Dandy, P. Bailey 先生など), ヨーロッパに出張 同年11月帰国
昭和 12 (1937) 年	(日中戦争始まる)
昭和 13 (1938) 年 (45歳)	「新潟神経学研究会」発足 (現在の新潟脳神経研究会) [あたためよ 越後の酒も わろからず]
昭和 16 (1941) 年 (48歳)	(太平洋戦争に突入)
昭和 20 (1945) 年 8月	(終戦)
昭和 22 (1947) 年 (54歳)	「脳手術」 南山堂 第1版出版 [学問の 静かに雪の 降るは好き] (昭和天皇 北陸ご巡幸の際ご進講)
昭和 23 (1948) 年 5月 (55歳)	第48回 日本外科学会会長 / 新潟
昭和 24 (1949) 年 10月 (56歳)	第1回 脳外科学研究会 (後の日本脳神経外科学会) 第1講堂で開催 「脳腫瘍」 南山堂 第1版出版 (新潟医科大学が新潟大学医学部と変わる)
昭和 26 (1951) 年 (58歳)	第13回日本医学会総会特別講演: 「日本における脳外科の現況」
昭和 28 (1953) 年 4月 (60歳)	還暦. 句集「刈上」を出版 (東大・医「脳研究施設」官制化) ワーレンベルグ症候群の発症 「私自身の体験した延髄発症の観察手記」書く 大脳半球摘除術の第1例を行う
昭和 30 (1955) 年の頃	新潟大学医学部教授を定年退官
昭和 31 (1956) 年 4月 (63歳)	(自称 新潟大学脳研究室 設置 室長), 新潟大学名誉教授
同年 同月	(植木幸明教授 就任)
同年 8月	
昭和 32 (1957) 年 4月 (64歳)	「新潟大学医学部附属脳外科研究施設」認可 (施設長, 65歳退職)
同年	「神経学随想」書く
昭和 33 (1958) 年 10月 (65歳)	「外科今昔」 文光堂 出版
昭和 36 (1961) 年 7月 (68歳)	「胎児 (生) 医学」書く 昭和 35 (1960) 年 (67歳) 「私の父」書く / まはぎ
同年 8月	「死の医学」書く
同年 11月	紫綬褒章 (脳外科学への貢献)
昭和 41 (1966) 年 9月 (73歳)	「癲癇 2000年」を連載 (1984年, 日本てんかん協会が単行本として発行)
昭和 42 (1967) 年 4月	「新潟大学 脳研究所」に昇格
同年 11月 (74歳)	文化功労者
昭和 43 (1968) 年 5月	「ふたたび“死の医学”について」書く
同年 11月 (75歳)	日本学士院会員 「甲羅に似せて穴を掘る」書く
昭和 46 (1971) 年 2月 (77歳)	「脳の Plasticity など」書く 「脳と心」 書く
同年 10月 (78歳)	「Neuro-Gliology」書く
昭和 49 (1974) 年 5月 (81歳)	「三度び脳と心」書く
昭和 50 (1975) 年 8月 18日 (82歳) 逝去	

昭和 51 (1976) 年 3月

脳研究所 研究棟 落成

昭和 52 (1977) 年

脳疾患標本センター →1995 脳疾患解析センター

→2002 統合脳機能研究センター

生命科学リソースセンター →2006

バイオリソースセンター

脳科学リソースセンター

平成 4 (1992) 年 6月 27日

生誕百年記念会, 句碑建立

平成 6 (1994) 年 4月 9日

(とめの奥様 逝去)

同年 11月 19日

生誕碑建立 / 津和野